

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども家庭支援の心理学						授業形態		講義	
科目コード	750162	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	石本 隆士								ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、保育者に求められる心理面での専門性を養うことです。 生涯発達とは何かを捉えた上で、乳幼児期から老年期までの発達を段階ごとに学ぶとともに、子育てを取り巻く社会状況や親子・家族関係、多様な家庭形態等の理解を図ります。 また、特別支援教育コーディネーターや教育支援委員会委員の経験を活かし、事例等を通して具体的な支援のあり方についての理解を深めていきます。									
関連する科目	履修前に「発達心理学Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。									
授業の進め方 と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開します。また、確実な学びに向け、ICTを活用した即時的な知識・意見の共有と、段階的な振り返りを行います。学びをさらに深めるため、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して、深化を図ります。									
授業計画 【第1回】	生涯発達とは何か ライフサイクルとライフコース、生涯発達から見た心の問題と家族について学びます。									
授業計画 【第2回】	0歳児の発達 0歳児における心身の特徴、運動発達、アタッチメントと安全基地、乳児期の課題と援助について学びます。									
授業計画 【第3回】	乳幼児期の発達①－1歳以上3歳未満児－ ことば・イメージの育ち、歩行の開始、保育者がモデルとなることの大切さを学びます。									
授業計画 【第4回】	乳幼児期の発達②－3歳以上児－ 幼児期における思考の特徴と全能感から行動調整の充実へ向かう発達について学びます。									
授業計画 【第5回】	学童期前期の発達 学校での生活と学習の始まり、論理的な考えや内言の発達を学びます。									
授業計画 【第6回】	学童期後期の発達 認知能力・道徳性の発達、仲間関係の広がりを学びます。									
授業計画 【第7回】	思春期・青年期の発達 性的成熟と性の多様性、心理的自立、自我同一性を学びます。									
授業計画 【第8回】	成人期・老年期の発達 ライフコースの多様化、親密性・世代性・統合を学びます。									
授業計画 【第9回】	子育てを取り巻く社会的状況 社会・家族の変化、子育ての困難さ、保育における子育て支援を学びます。									
授業計画 【第10回】	家族・家庭の意義と機能、親子・家庭関係の理解 家族の形態と変化、家庭の機能と変化、家族心理学と家族システム理論を学びます。									

授業計画 【第11回】	子育ての経験と親としての育ち-ライフコースと仕事・子育て- ライフコースや性別意識の変化と子育ての現状、親になるプロセスと支援を学びます。
授業計画 【第12回】	多様な家族形態とその理解 多様な家庭の実態、保育所保育指針、育児のアセスメントと支援を学びます。
授業計画 【第13回】	特別な配慮を必要とする家庭 病気や疾患、障がい、貧困、虐待、予期せぬ出来事への遭遇した家庭について学びます。
授業計画 【第14回】	発達支援の必要な子どものいる家庭 見通しのもちにくい子育て、親としての発達へ寄り添う支援を学びます。
授業計画 【第15回】	子どもの精神保健 子どもの生活・生育環境と影響、心の状態をとらえる視点と支援を学びます。
授業の到達目標	(1)生涯発達に関する心理的变化を説明することができる。 (2)家庭・家族の意義や機能を踏まえ、保育者が行う家庭支援について考えることができる。 (3)発達支援の基本となる姿勢に基づき、保育実践を理解することができる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	授業の中で、次の授業内容・課題などを提示しますので、各自で確認したり、調べたりしておいてください。（1時間程度）
授業時間外学習【復習】	適宜用意する資料等を基に、内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等でさらに深めたりしておいてください。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説します。
評価方法・基準	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容（30%）、及び最終試験（70%）で総合的に評価します。
テキスト	青木紀久代編（2026）『シリーズ知のゆりかご子ども家庭支援の心理学〔第2版〕』みらい（2,400円＋税） なお、必要に応じて資料を用意する。
参考書	厚生労働省編（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館（320円＋税）
備考	37年間、公立小学校に勤務（通常の学級の担任5年、通級指導教室担当14年、特別支援学級担任18年）。特別支援教育コーディネーターを担う。勤務校のあった3つの市において、教育委員会より教育支援委員会委員の委嘱を受ける。